

厚生労働省三重労働局発表

令和5年8月28日

テレビ・インターネット 8月28日記者会見終了後解禁

新聞 8月28日夕刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 大平 博章

課長 補佐 村井 邦章

地方労働市場情報官 山本 佳弘

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(令和5年度第2・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和5年度第2・四半期(令和5年7月～9月)実績見込み及び次期(令和5年10月～12月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が40.3%で前期と比べ増加、「減少」が17.7%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は22.6となり前期と比べ27.5ポイント上昇。次期見通しは6.5で下降予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が35.9%で前期と比べ増加、「減少」が25.0%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は10.9となり前期と比べ29.9ポイント上昇。次期見通しは3.1で下降予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が33.3%で前期と比べ増加、「減少」が14.3%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は19.0となり前期と比べ25.5ポイント上昇。次期見通しは11.1で下降予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が35.9%で前期と比べ2.6ポイント増加、「ない」が42.2%で前期と比べ2.5ポイント増加。D I(「ある」-「ない」)は▲6.3で前期と比べ0.1ポイント上昇。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」は1.6ポイントで前期と比べ増加、「やや過剰」は2.3ポイントで前期と比べ減少、「不足」は6.3ポイントで前期と比べ減少、「やや不足」は22.7ポイントで前期と比べ増加。D I(「過剰」-「不足」)は▲25.1となり前期と比べ6.0ポイント下降(不足判断が増加)。次期見通しは▲27.4で「不足」判断がやや増加の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所数は17事業所(26.6%)で、前期の24事業所(38.1%)より減少。

○資料

別添 「令和5年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和5年度第2・四半期（令和5年7月～9月）実績見込み及び次期（令和5年10月～12月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業64社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

令和5年度 雇用情報モニター報告集計

令和5年度 第2・四半期

三重労働局職業安定部職業安定課

令和5年度第1・四半期（5年4月～6月 以下前期）においては、全ての指標のD Iがマイナスとなりましたが、第2・四半期（5年7月～9月 以下今期）においては、多くの指標のD Iがプラスとなりました。

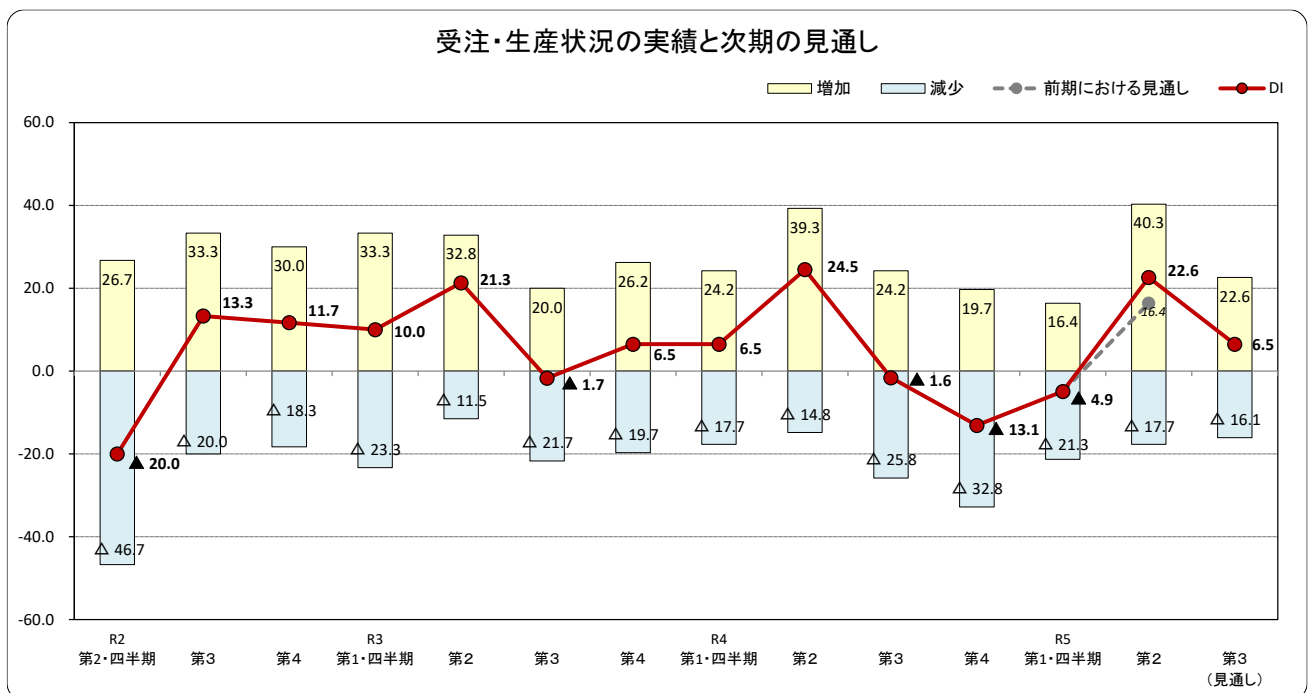
第3・四半期（5年10月～12月 以下次期）の予想においては、多くの指標で下降の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が40.3%、「減少」が17.7%で、D I（「増加」－「減少」）は22.6で前期と比べ27.5ポイント上昇し、4期ぶりにプラスとなりました。

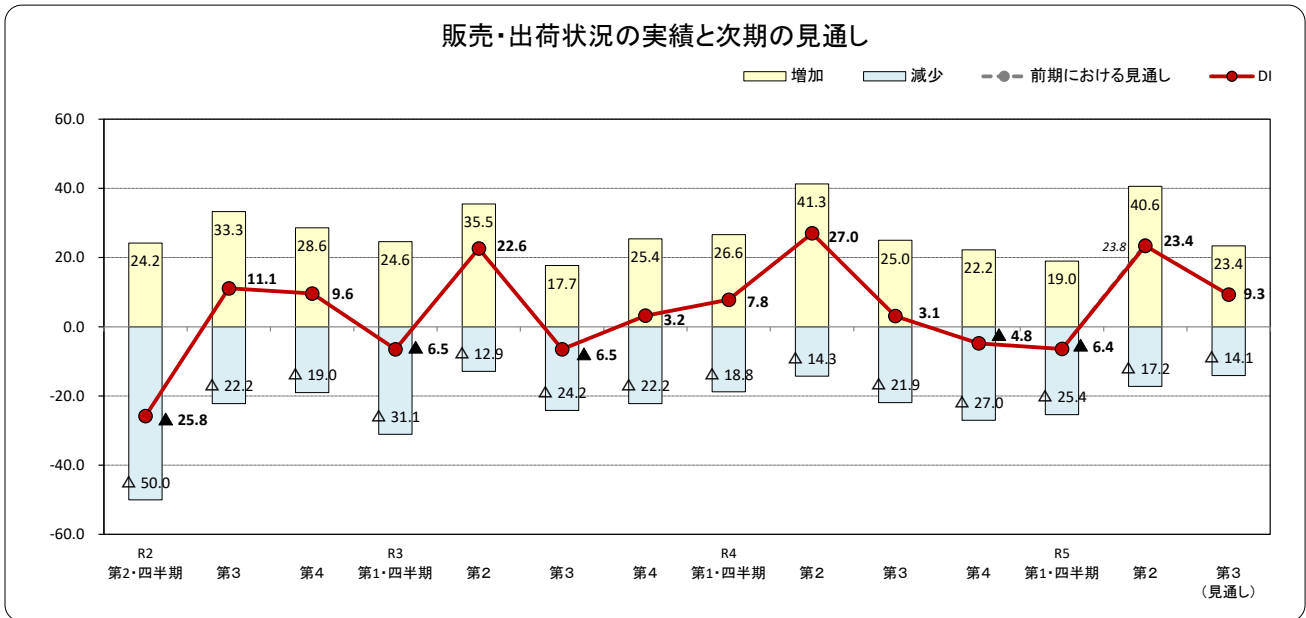
次期の見通しについては、D Iは6.5で、下降する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が40.6%、「減少」が17.2%で、D I（「増加」－「減少」）は23.4で前期と比べ29.8ポイント上昇し、3期ぶりにプラスとなりました。

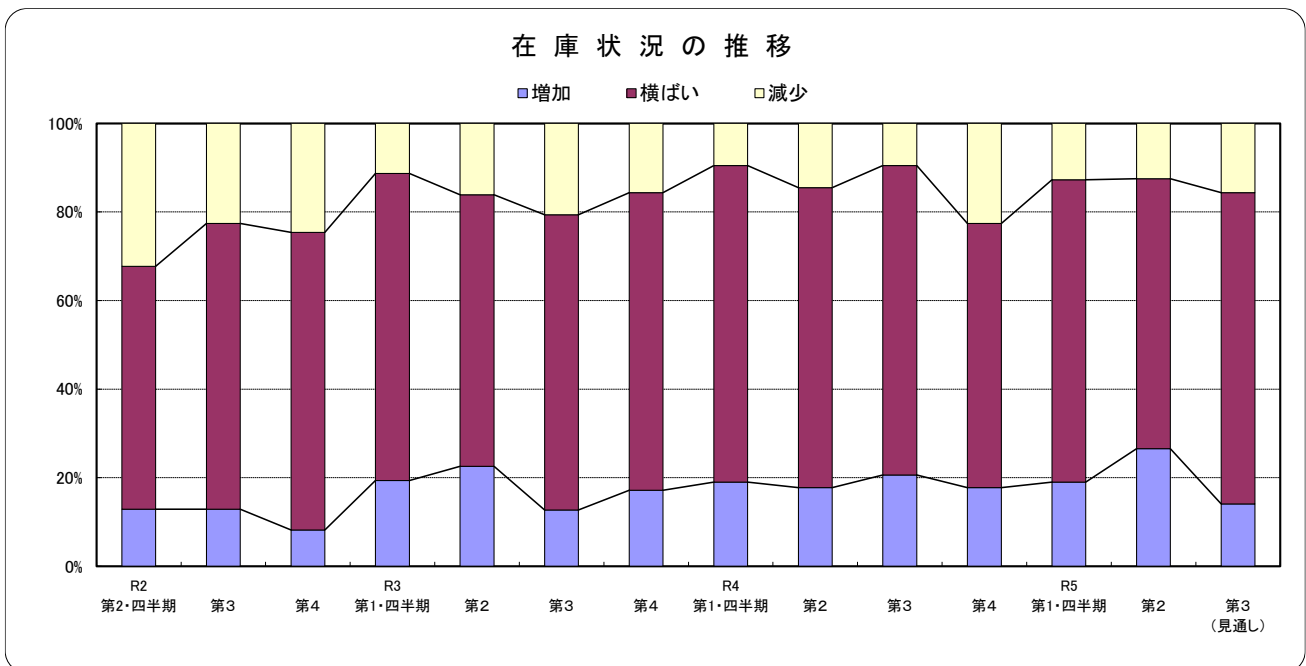
次期の見通しについては、D Iは9.3で、下降する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が減少、54期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が減少、「減少」が増加する予想となっています。

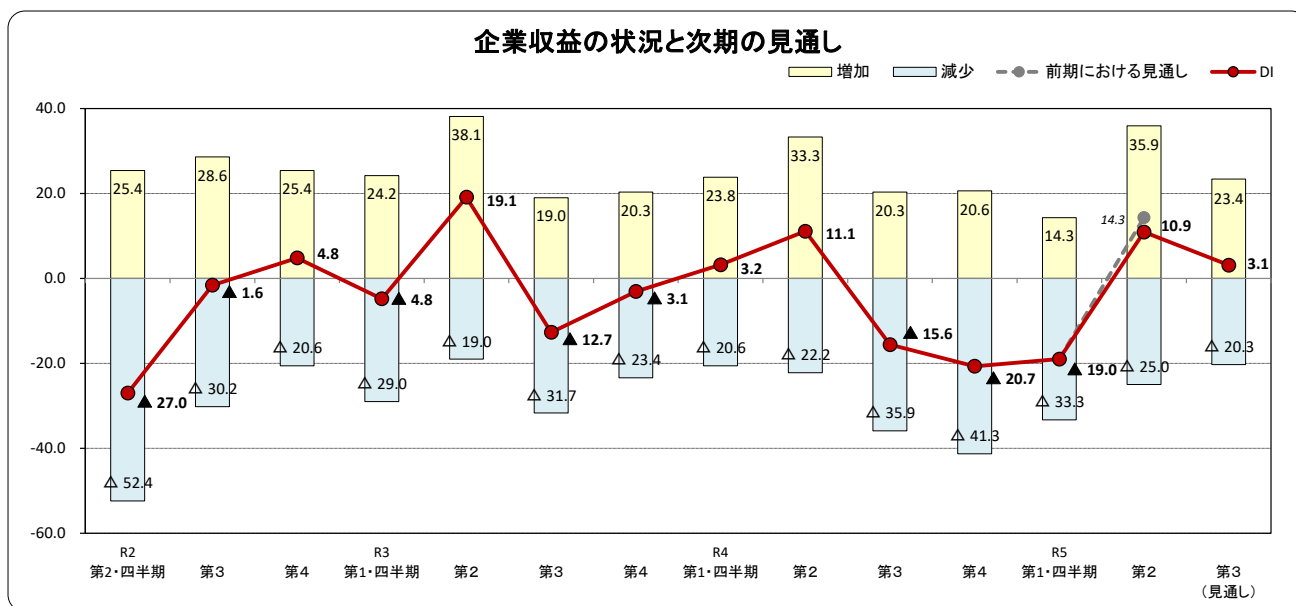


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が35.9%、「減少」が25.0%で、D I（「増加」－「減少」）は10.9となり、前期と比べ29.9ポイント上昇し、4期ぶりにプラスとなりました。

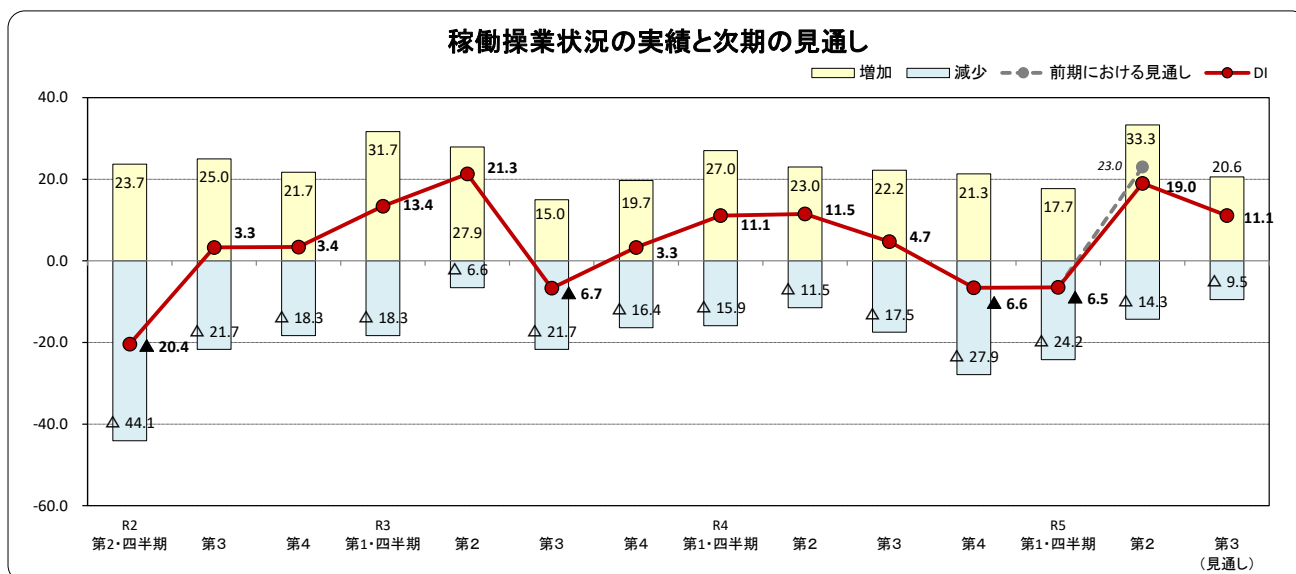
次期の見通しについては、D Iは3.1で、下降する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

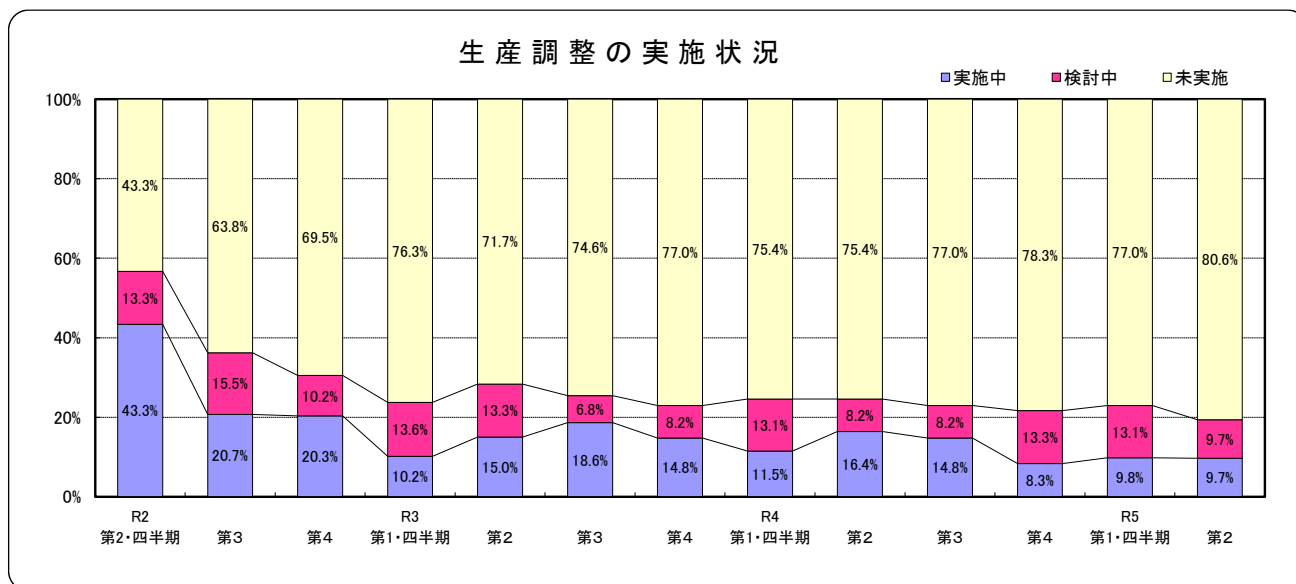
今期の稼働操業状況では、「増加」が33.3%、「減少」が14.3%で、D I（「増加」－「減少」）は19.0となり、前期と比べ25.5ポイント上昇し、3期ぶりにプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは11.1で、下降する予想となっています。



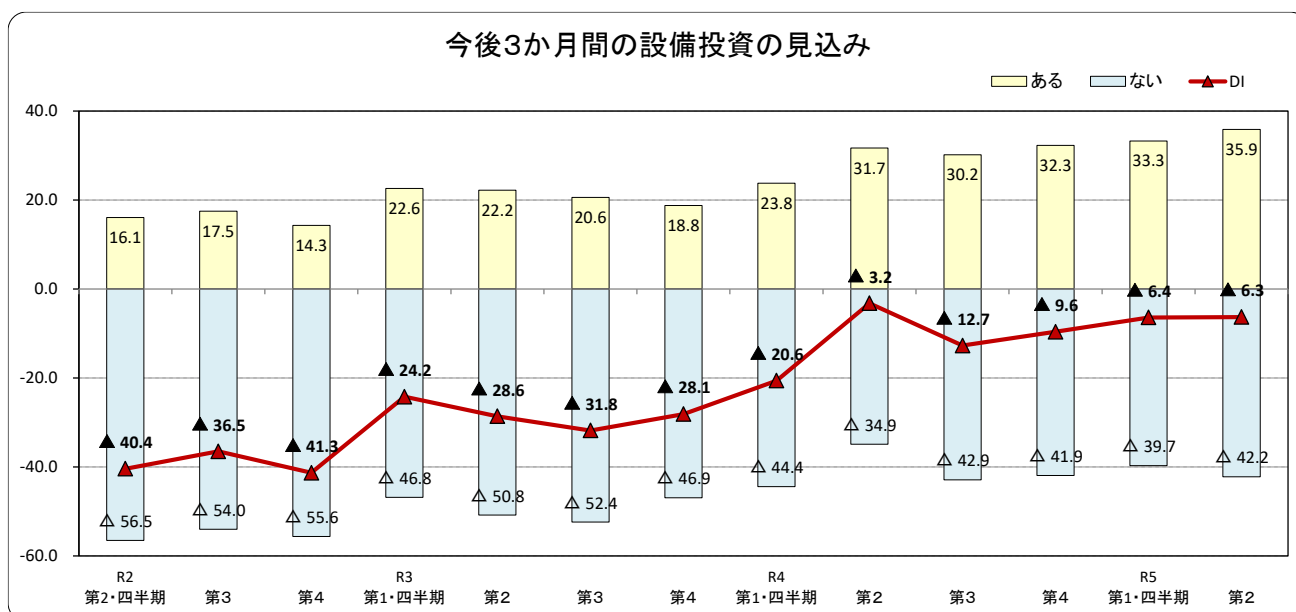
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は80.6%で前期と比べ3.6ポイント増加、「検討中」は9.7%で3.4ポイント減少、「実施中」は9.7%で0.1ポイント減少となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は35.9%で前期と比べ2.6ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は42.2%で前期と比べ2.5ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は▲6.3となり、前期と比べ0.1ポイント上昇しました。

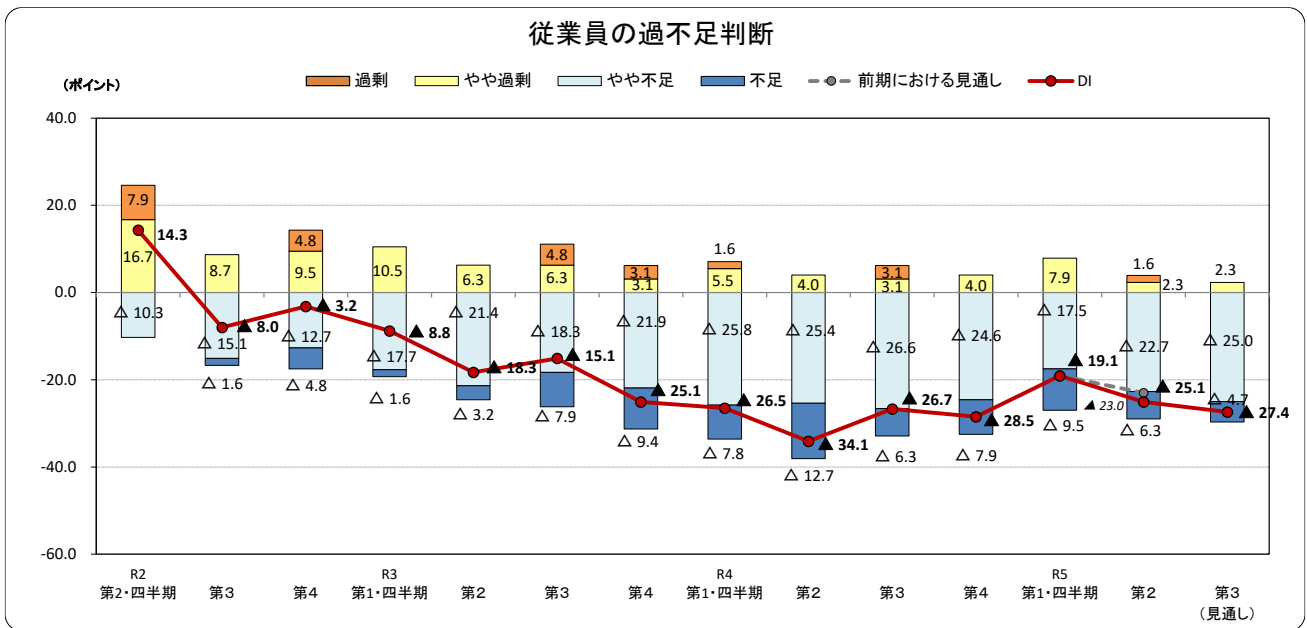


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 1.6 ポイントで前期と比べ 1.6 ポイント増加、「やや過剰」とする事業所は 2.3 ポイントで前期と比べ 5.6 ポイント減少、「不足」とする事業所は 6.3 ポイントで前期と比べ 3.2 ポイント減少、「やや不足」とする事業所は 22.7 ポイントで前期と比べ 5.2 ポイント増加し、D I（「過剰」-「不足」）は▲25.1 となり、前期より 6.0 ポイント下降（不足判断が増加）し、1 2 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

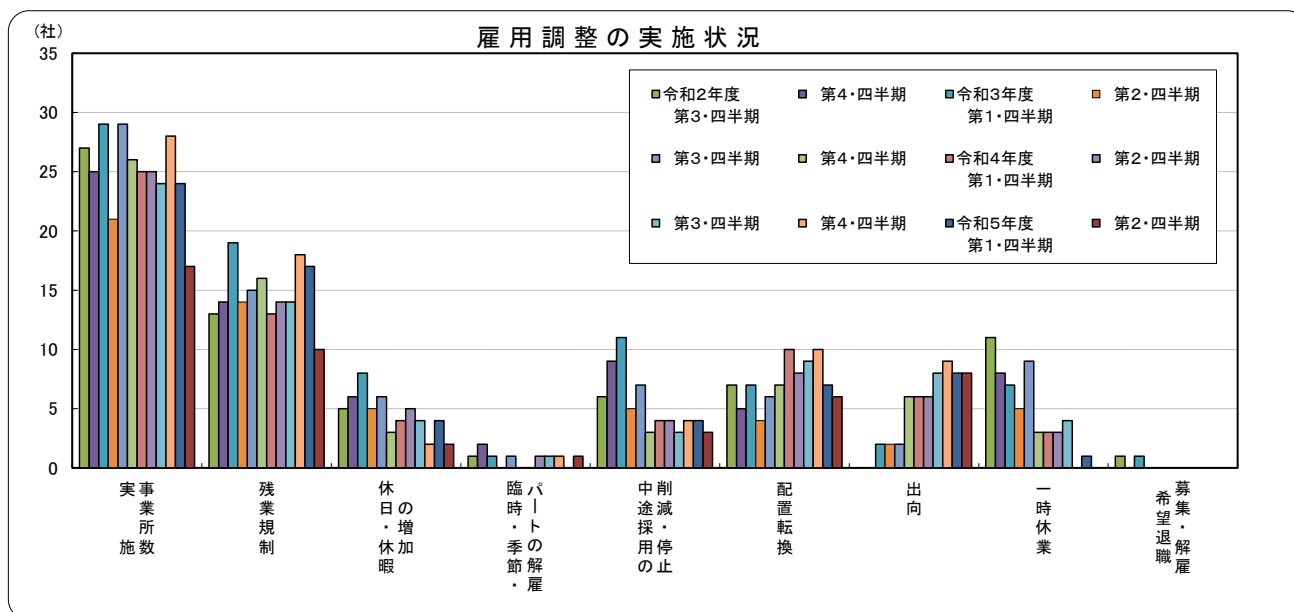
次期の見通しについては、D I は▲27.4 で、不足判断がやや増加する予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 17 事業所 (26.6%) で、前期の 24 事業所 (38.1%) より 7 事業所の減少となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和2年度 第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度 第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度 第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0
第2・四半期	63	35	3	25	14	5	1	4	8	6	3	0
第3・四半期	64	34	6	24	14	4	1	3	9	8	4	0
第4・四半期	61	29	4	28	18	2	1	4	10	9	0	0
令和5年度 第1・四半期	63	32	7	24	17	4	0	4	7	8	1	0
第2・四半期	64	39	8	17	10	2	1	3	6	8	0	0



<主なコメント>

- 原材料、燃料、電気、資材、運送費等すべてが大幅に値上がりしており、価格の見直しのタイミングも難しく収益を圧迫している。（協同組合）
- 物価高については、消費者心理にも慣れが見え始め、日配品や必需品を中心に改善がみられる。（小売業）
- コロナ陽性者が増え、一部の事業所でクラスター化した。（医療・福祉）
- 物価高で利益率は低下しており、すべてを価格に転嫁はできないが、ニーズがある以上は量産体制を継続する。（製造業）
- 受注が減少傾向にあり、特に下期は更に厳しくなると予想しているため、設備投資の先送りを検討中。（製造業）
- コロナも一定の落ち着きを見せているため繁忙期の夏休み期間に期待している。ただ、食材費、水道光熱費の大幅な上昇に加え、人件費も上昇しているため、宿泊料金の値上げを行っており、これが集客にどのような影響を与えるかを今後注視していく必要がある。（宿泊業）
- 人員に関しては不足傾向だが、今後も最低賃金の上昇が大きくあると聞いているので不安。（小売業）
- 4月以降の受注が少なく、在庫の増加が起こっている。又原材料費の高値が継続しており、収益を圧迫している。（製造業）
- 欧米の利上げや中国の景気不透明感などから、受注の調整局面に入った印象。操業度は高いレベルを維持するも、原材料の高騰、電気代を中心とした光熱費の高騰の影響により、利益に影響があった。（製造業）
- 小売店、得意先様での販売動向が鈍く、製品在庫が過多となってきたため、稼働調整を実施予定。資源エネルギー価格、材料の高騰が続き、高値安定している状況のため、収益を圧迫している。（製造業）
- コロナ5類移行後、客数も増加傾向で売上も増加。しかし、電気代の高騰が止まらないため、営業利益は打撃を受けている。（小売業）